

A. 1. 進路を考えましょう

▼ 自分の進路どうする？

自分の進路を真剣に考える時がきました。

10年後の自分をイメージして一生懸命考えてください。

▼ 高校卒業後どうする？

進学・・・四年制大学、短期大学、専門学校、留学など

就職・・・民間企業、公務員など

いずれのケースも保護者・担任の先生とよく相談して決めてください。

民間企業への就職、公務員を考えている人は保護者・担任の先生と相談の後、早めに進路指導室に来てください。

▼ 本校卒業生の大半は進学です。みなさんもとりにあらず進学と考えている人が多いのではないのでしょうか？

ただし、大学・短大にはさまざまな学部・学科があります。

文科系学部・・・文学部、法学部、経済学部、経営学部、社会学部

理科系学部・・・理学部、工学部、農学部、医学部、薬学部

どちらともいえない・・・情報学部、看護学部、総合学部

自分がやりたいこと・なりたい職業に就くことが実現できる学部・学科はどこかを見つけてください。

学部・学科が決まったら学校を選びます。同じ名前の学部・学科でも大学によって学ぶ内容が異なる場合も多く、偏差値が高い学校が自分にとってよい学校だとは限りません。

▼ 志望先が決まったら、資料を閲覧し、オープンキャンパスに行きましょう。

・進学情報サイト

様々な進学情報サイトがあります。旺文社パスナビ、河合塾、ベネッセなどを検索してください。

・先生（担任・教科担当・進路指導部）

わからないことや疑問があれば担任・教科・進路の先生に尋ねてみましょう。成績なども踏まえた具体的な話ができます。

・学校案内

進路閲覧に先輩達が進学した大学・短大・専門学校の募集要項や情報を用意しています。

授業内容から施設・設備、キャンパスライフ、資格取得や就職状況まで、学校の特長や実績が詳しく紹介されています。いくつかの学校の違いを確認してみましょう。

・オープンキャンパス

春休みや夏休みに実施されます。キャンパス見学ツアーや模擬授業、個別相談など、多彩なプログラムが企画されています。大学の雰囲気を感じたり、通っている先輩の生の声を聞くこともできます。

友達や保護者の方と一緒に参加してみましょう。大学の公式ウェブサイトで実施日時が確認できます。

▼ 入試について

次の表は、一般選抜、学校推薦型選抜（公募推薦、専門科推薦、指定校推薦）、総合型選抜について説明しています。よく読んで理解しておきましょう。特に推薦入試は、高校からの推薦が必要であり、各大学・短期大学・専門学校の学部・学科ごとに推薦基準が定められているので、その基準に達していることが推薦入試を受験できる条件です。

本校の進学希望者の大半が推薦入試を受験します。推薦入試を行う大学・短期大学・専門学校には必ず「専願」でなければならないところと、「併願」が可能なところがありますので注意して下さい。

なお、指定校推薦・スポーツ推薦はすべて「専願」になります。

【受験種別による試験内容、受験条件の違い】

受 験 種 別		入試内容	受験資格	入試時期
一 般 選 抜	募集人数が一番多い入試です。国公立大学では、センター試験を受けてから2次試験（個別学力検査）が実施されます。私立大学は1月からの前期、2月からの中期、3月の後期と複数回実施されます。	筆記試験 中心	制限が 少ない	2学期末 ～3学期 (遅い)
学 校 推 薦 型 選 抜	高校からの推薦が必要。 一部卒業生も受験可能。			
	(公募推薦) 年内に実施され、試験は2科目がほとんどです。推薦書が必要で、面接が課されることもあります。関関同立などの難関大学には公募制推薦入試はあまりありません。			
	(専門科推薦) 専門科在籍で一定の成績と戦績などの条件を満たした人が対象です。 小論文・面接があることが多いです。			
	(指定校・スポーツ推薦) 大学・短期大学・専門学校が高校を指定して、成績・戦績など一定の条件を満たしている人が対象です。 面接があります。すべて専願です。	面接・小論文 中心	成績、戦績 などの制限	2学期 (早い)

※総合型選抜（旧 AO 入試アドミッションズオフィス入試）

総 合 型 選 抜	学力では測れない個性豊かな人材を求めることを目的としていて、学力よりも目的意識や熱意・意欲を重視する入試です。入試までの流れは、エントリーシートで出願意志を表明し、セミナーなどに参加すると受験資格が得られます。選考方法は面談が最も多く、レポート作成、研究発表といったものもあります。 正式出願後は、専願になるケースが多い。	面接 書類選考 プレゼン 小論文 など	意欲や人物評価などを重視。 学校の内容をよく理解した上で入学を決めてもらう。	極めて 早い (1 学期から)
-----------------------	--	------------------------------	---	-----------------------

総合型選抜には、小論文・面接もしっかり事前に入念な対策が必要です。

スポーツ推薦や指定校推薦（いずれも専願）との日程を確認しておく必要があります。

▼専願と併願について

「専願」は合格すると入学辞退ができません。「併願」は受験に関しては特に制限がありません。例えば、受験を考えている大学などが併願可能であれば、2校以上推薦で受験することもできます。逆に、特別入学制度や指定校推薦はすべて「専願」です。1校しか出願ができません。

2. 進学の手順（志望校の選定から入学手続きまで）

志望校選定から受験校への出願、受験、合格発表、合格書類を受け取り、入学手続きをするまで決められた期日までに確実にを行う必要があります。早めの対応をお願いいたします。

1. 志望校の選定

- a. 自分の目標を明確に設定する。学校・学部・学科入試方式まではっきり考える。
- b. 家族、担任とよく相談する。
- c. 情報を集める。
 - ・学校にある資料を見る。
 - ・インターネットで調べる。
 - ・学校案内などの資料を取り寄せる。
 - ・オープンキャンパスなどに参加する。

2. 受験日程を決める

- a. 募集要項をよく読む。（出願条件、専願かどうかの確認）
- b. 推薦入試で決めたいと思っている人も、必ず一般入試まで考える。
- c. 併願校の入学手続き締め切り日を確認し、受験日程を決める。
- d. 専願校の日程重複受験はできない。（進路に相談してください。）

3. 出 願

- a. 出願準備（インターネット出願が増えています）
 - ・募集要項、願書を取り寄せる。（ほとんど進路にあります。）
 - ・応募書類の作成
 - 志願書（募集要項をよく読み、記入する。）
 - 写 真（制服で撮影する。裏に名前を書く。）
 - 調査書（2週間前までには担任に調査書請求用紙を提出する。）
 - 推薦書（推薦書が必要な場合は、推薦書・スポーツ調書発行承認願も添えて担任に提出する。）
 - 受験料（コンビニ、銀行に払い込み、領収書を願書に貼る。）
- b. 出願（締め切り日が必着か当日消印有効かを確認しておく。）

4. 受 験

- a. 授業のある日に受験する場合は出席停止届を提出する。
- b. 交通経路を確認し、受験開始 30 分前には到着するようにする。

5. 発 表

自宅に届く場合と学校に届く場合がある。受験結果は担任に報告すること。（不合格でも必ず報告すること。）

6. 入学手続き

指定された日までに入学金を納入する。納入しないと合格は取り消しになる。

注意事項

- ・奨学金（日本学生支援機構）は高校で予約申請をして、入学してから正式に申請します。初回振り込みは入学後の6月頃です。
- ・授業料を年内に納入しなければならない学校もあります。
- ・専願で受験する場合は、合格したら必ず入学しなければいけません。
- ・指定校推薦入試、スポーツ推薦入試も専願です。

▼ 調査書請求・推薦書・スポーツ調書等承認願

大学、短期大学、専門学校を受験するときには調査書が必要です。就職の場合には別様式のものが 필요합니다。総合型選抜や学校推薦型選抜では調査書とともに推薦書やスポーツ調書が必要となります。

調査書を発行してほしいときは、調査書請求用紙を担任に提出してください。

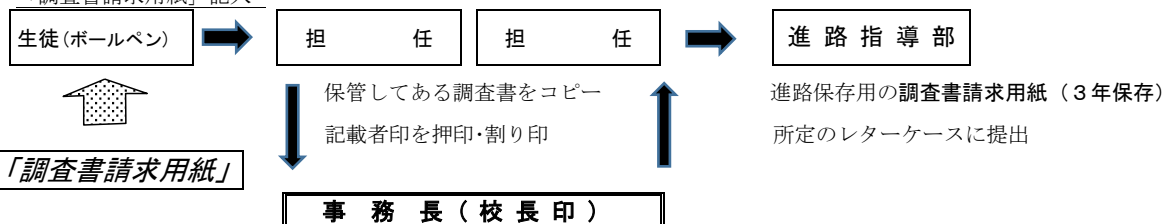
推薦書・スポーツ調書等承認願を発行してほしいときは、推薦書・スポーツ調書等承認願を担任に提出してください。

- ・出願の2週間前には担任に提出してください。
- ・コード表は教室に掲示しています。各大学のコード番号を、() 欄に書いてください。
- 私立大学で学校コードがないときは記入しないでください。

調査書・推薦書発行の流れ

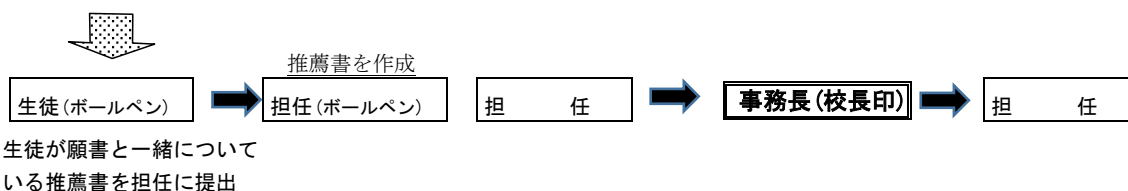
1 調査書の発行

「調査書請求用紙」記入



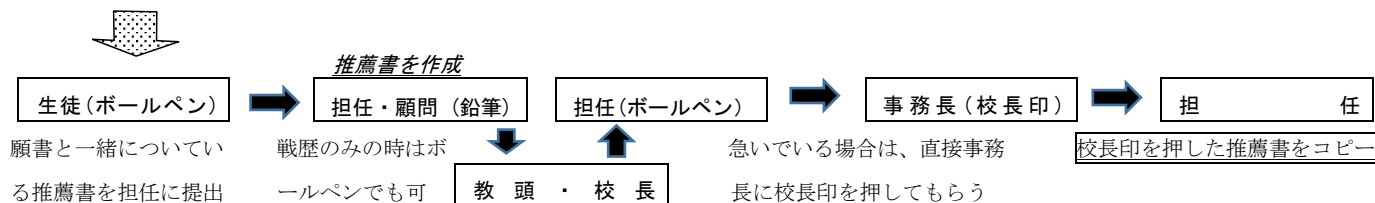
2. 推薦文のいない校長印のみの推薦書 学校推薦型(指定校・公募推薦)

「推薦書・スポーツ調書等発行承認願」記入



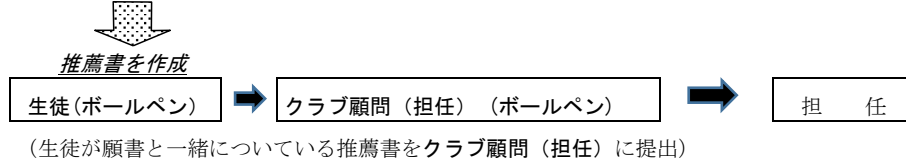
3. 推薦文のいる推薦書 学校推薦型(指定校・公募推薦) & スポーツ調書等で校長印のいる場合(スポーツ推薦)

「推薦書・スポーツ調書等発行承認願」記入



4. スポーツ調書等承認願で校長印のいない場合 学校推薦型(スポーツ推薦)

「推薦書・スポーツ調書等発行承認願」記入



3. 目標進路設定

次に書いていることは当たり前のことですが意外とできていないことです。希望する進路を実現させるために心がけてください。これは就職、専門学校を希望する人も同じです。

▼ 凡事徹底

- ・学校の授業を大切にする。
- ・休みの日こそ勉強。
- ・スマホの時間を学習時間に。

▼ 学校の勉強に目標を立てる

- ・予習・復習の習慣を身につける。
- ・宿題・提出物を忘れない。
- ・定期テストの目標点設定と見直しをする。

どの勉強法でも結果が出るまでには最低 3 か月かかるといわれています。学校の勉強でも先生の話し方や板書の仕方など授業の進め方は人それぞれです。予備校などの学校以外の勉強においても授業に慣れて成績が上昇するまでに時間が必要です。

できるだけ早く進路目標を決め、自分にあった勉強法を見つけることが進路実現において大切なことです。

▼ 実力テスト・模擬テスト

志望校に合格するには計画的に学習することと自分の学力を確認することが大切です。

模擬テストは、実力の確認、自分の弱点発見克服に活用してください。

全員受験のベネッセ模試の他夕陽丘予備校の近大無料模試・関関同立模試など希望する人は受験してください。

▼ スタディサプリ（リクルート社）・トライイット（トライグループ）

スタディサプリは学校団体料金で提供しています。スマホや自宅のパソコンで視聴可能です。スマホではデータ通信量が多いため通話料が高くなります。トライイットは、無料 YouTube で視聴可能です。

自分に合った方法で継続できることが大切です。

▼ 補習等

3 年生夏休みを中心として大学進学補習を行っています。

予備校に行かずに学校の補習だけで大学に合格した人もいます。

大いに活用してください。

4. 大学入学共通テスト

- ▼ 国公立大学や大学入学共通テスト利用型私立大学を受験する人は大学入学共通テストを受けなければなりません。「大学入学共通テスト」は 1 月中旬の土曜日、日曜日に実施されます。

1 出題教科・科目

国公立大学で最も一般的なものは 5 教科または 6 教科 7 科目です。2 次試験の配点等は、7 月末までに各大学が発表することになっています。

私立大学での大学入学共通テストを利用した入試は、高得点の 2 科目で判定を行うなど多様です。近年募集人数が増加しています。

▼ 内容とレベル

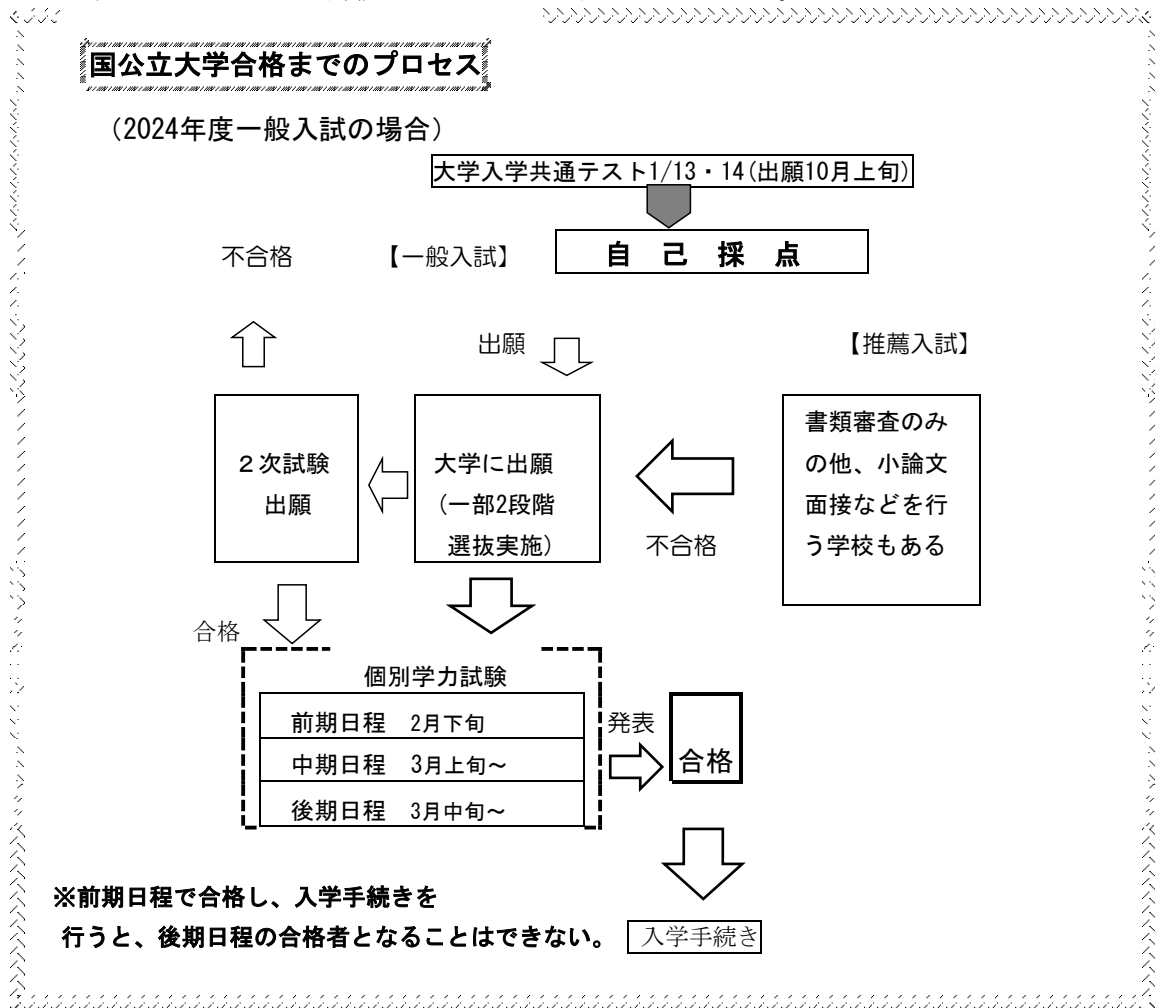
大学入学共通テストの出題レベルは、どの科目も高校の授業の範囲内の基本的な内容とされています。しかし、本校生にとっては、きわめて難易度の高いテストです。問題が特異なため大学入試共通テスト対策は重要です。各教科の平均点は60%前後です。近畿圏国公立大学・私立大学とも各科目70%以上の得点が必要です。

▼ 学習対策

学校の授業で習う基本事項をしっかりと理解した上で、過去の大学入試センター試験や入学共通テスト用の問題を繰り返し勉強することも大切です。

★ 大学入学共通テストの日程（手引き）

次に2024年入試のプロセスを掲載しましたので参考にしてください。



● 大学入学共通テストについての注意

- 大学入学共通テストの出願は学校一括出願です。説明をよく聴き、志願票を記入し、検定料を振込み、進路に提出してください。期限厳守です。
- 国公立大学の推薦入試は、1つの大学・学部にはしか出願できません。
- 国公立大学前期・後期日程は、それぞれ1つの大学・学部にはしか出願できません。
- 国公立大学、私立大学の願書の入手、出願は各自で行います。また、大学入学共通テスト受験票の成績請求票を貼り付けなければいけません。

● 国公立大をめざす生徒さんは、個別対応しています。

担任・保護者とよく相談されたあと進路指導部で個別対策の話になります。

5 a. 私立大学をめざす 学校推薦型（各種推薦）、総合型選抜（旧 AO）

▼指定校推薦入試

本校で最も合格者の多い入試です。専願制です。依頼校からの推薦条件を満たしていれば、志望理由書や面接などで合格をもらうことができます。みなさんの先輩方がその学校に入学してその学校で頑張ってくれた成果です。指定していただく学校では本校からの受験状況、在学状況、特に指定校推薦入学者の出席状況、成績、卒業後の進路までも調査し、次年度指定校推薦の依頼を続けるかが検討されます。途中で退学するなど推薦依頼がなくなった学校があります。

入学しているんなことにチャレンジして、後輩に指定校推薦枠を増やせるように頑張ってください。

指定校推薦のメリット

- 推薦を受けることができた人は、合格する可能性が非常に高い。
- 12月までに進路を決めることができる。

注意する事柄

- 進学したい学校・学部・学科から依頼があるとは限らない。
- 推薦者決定会議で絶対選ばれるとは限らない。夏休みはしっかり勉強すること。
- 受験勉強に行き詰って安易に指定校推薦に応募してしまうと入学後に後悔する。
- 合格後、学校によって課題、レポートなどがある。

指定校推薦の決定の方法

会議で推薦者を選び校長が決定します。

評定平均値、出欠、適性、特別活動など総合的な観点で選考します。

評定平均値とは1年生から3年生1学期期末までの各科目の評定を平均したものです。

指定校推薦を希望する人は担任とよく相談してください。是非オープンキャンパスに参加してください。

▼スポーツ推薦入試

正選手で全国大会出場が目安です。大学のクラブから顧問の先生に直接依頼がある場合がほとんどです。クラブ戦績が、大学の推薦基準を上回っていても依頼がない場合は、合格が難しいです。

顧問・保護者・担任とよく相談してください。

▼総合型選抜（旧 AO 入試）

本校において受験する生徒は多いです。大半が専願制です。

面接・小論文・講義受講型等々入試形態多様です。四天王寺大・大阪体育大は例年合格者を輩出しています。

▼公募制推薦入試

本校生で最も受験者が多い入試です。一般入試より少しだけ楽な入試とイメージしてください。学校長の推薦を受けて受験します。推薦条件は学校によって違うのでよく確認してください。特に「専願」の場合には合格したらその学校に入学しなければいけません。文科系は国語、英語の2科目、理科系は数学、英語の2科目の試験が多いです。一般入試まで念頭に置いて3科目受験準備を是非。なお関関同立に公募制推薦入試はありません。

▼専門科公募制推薦入試

摂南大の専門科推薦入試は合格率が高く、併願制です。

龍谷大の専門科推薦入試もあります。併願制です。

▼一般選抜

1月中旬から始まり3月下旬まで続く、募集人数が一番多い入学試験です。文科系は国語、英語、社会の3科目、理科系は数学、英語、理科の3科目の学力試験が多いです。昨今1回の受験で2回判定をすることがあります。龍谷大学や近畿大学ではスタンダード方式と高得点科目重視方式があり、追加の受験料がかかりますが合格する可能性が高まります。

▼ 大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テストの結果だけや大学独自の試験と大学入学共通テストの結果を総合して合否を判定する入学試験です。一般入試と同じ時期に行われます。本校生で合格実績はほとんどありません。

受験校決定に向けてのアドバイス

3年生夏休みには受験計画を立ててください。

- ・第一志望校の偏差値から3ポイントごとくらいで3校程度の併願校（滑り止め）を考える。
- ・担任の先生・保護者とよく相談し、志望校を決める。
- ・合格発表日と入学手続締切日をよく確認して、受験計画を立てること。
- ・受験料も計算しましょう。

5 b. 短期大学の入試について

ここ数年の短期大学の実質倍率は、学校や学科によって差はあるものの、推薦・一般選抜とも全体では1.1倍程度です。短期大学は入学しやすくなっています。ただし、一部の短期大学では、人気の高い学科は推薦・一般選抜とも倍率は高く不合格者が出ているので、十分な準備が必要です。学科の内容や得られる資格など、入学後の学生生活や就職までを見据えて進学先を選び、あくまで一般入試までを念頭に置いて最後まで粘りきることが、志望校合格とその後の実りある学生生活のためのキーポイントです。

6. 専門学校

▼ 専門学校について

(1) 専門学校とは

「専門学校」とはひとつの法律上のことばだと理解してください。

- ① 大学・短大以外の教育施設で、高校卒業後の生徒対象。
- ② 各都道府県知事の認可を受ける。
- ③ 年間授業時間数 800 時間以上（夜間は 450 時間以上）で、修行年限 1 年以上。
- ④ 生徒数 40 名以上。

上記の②③④の条件を満たして、入学資格が中学校卒業後の生徒を対象としたものを「高等専修学校」、学歴や年齢に関係なく入学できるものを「専修学校」と呼びます。

(2) 専門学校とその他の教育機関との見分け方

学校名を見れば、大体分かります。専門学校は、各都道府県知事の認可を受けなければなりません。認可を受けていない学校は「専門学校」と名前を付けていないし、「〇〇の専門学校」という表現もできません。

各種学校も学校教育法に規定されている学校ですが、専修学校ほど規制は厳しくありません。

ですから学校名の表現は、大阪だったら大阪府知事認可〇〇スクールや〇〇学院という形になります。ですから、〇〇専門学校や専門学校〇〇学院という場合は、専門学校だと考えてもらって間違いのないわけです。

▼ 専門学校進学の手構え

学校の選択がそのまま将来の職業決定につながるわけですから、将来どんな職業につきたいのか、また、卒業後に予測される産業界の現状や将来、職種の内容などについて理解しておくことが大切です。そして、そのために専門学校で何を学ぶのか、すなわち、身につけたい専門知識や技術・技能、取得したい資格は何なのか、などの進学目的をしっかりと持つことが大切です。

▼ 学校選びのポイント

数多い専門学校の中から、自分の進学目的、能力・適正に合った学校を選ぶ必要があります。学校見学会に参加することが一番の方法です。見学の際以下の事柄を念頭において学校選択の基準にしましょう。

(1) カリキュラムと授業時間数を確認する

専門学校のカリキュラムは自主編成で同じ学科名であっても、学校によってカリキュラムが違います。したが

って、自分の進学目的に合った教科目で編成されているかどうかが比較のポイントになります。授業時間、専門科目の配分、実験・実習の内容などをよく調べてください。

(2) 教育施設・設備を確認する

技術・技能習得のために必要な施設・設備の整っている学校が望ましいのです。実習定員に対する実習機器の台数を確認してください。（例えば、コンピュータは学生一人に一台かなど）

(3) 取得できる資格を確認する

希望する資格が国家資格なのか民間の資格なのか、希望する職業に必要なのか、あるいは就職に有利な資格なのかを調べておく。入学案内書にきちんと記載されている学校、また資格試験や各種検定の合格率を公表している学校が望ましいといえます。

(4) 就職状況を確認する

卒業生の就職状況はそのまま社会、企業におけるその学校の評価とみることができます。大企業への就職が多いかどうかだけで判断せず、学んだ技術や知識、資格などが生かせるかたちで就職できているかも大切です。

(5) 学費・諸経費を確認する

学費以外の寄附金や学校債はないか、学費の払い込みは一括納入か分割納入が可能か、などを調べ、また、入学案内書に書かれていない費用（例えば、教材費・教科書代など）にも注意しましょう。

7. 看護・医療系について

人の命にかかわる専門職なので、専門の知識と技術だけでなく資格に適した資質も求められます。そのため各養成校では、専門科目を学ぶ力があるかどうかを学科試験で、資質があるかどうかを面接や小論文、実技など様々な方法で選考します。養成校には、国公立大学の4年制、短大（3年制）、専門学校といろいろありますが、専門学校の数が圧倒的に多くなっています。養成校を卒業すると、国家試験の受験資格が得られ、その関門を突破してはじめてライセンスが取得できるのです。

(1) 看護師

- ① 四年制大学では一般大学と同じ「学士」を得ることができ、大学によっては保健師、助産師の国家試験受験資格や中学・高校の保健教諭、養護教諭等の免許取得が可能です。研究者や看護教員を養成する教育機関です。入試は国公立大学では一次に大学入学共通テスト、二次では2～3教科型（数・英・理）と小論文・面接を課す所が多くなっています。また、私大においても3教科型が多く、小論文・面接を課す所が多くなっています。国公立大では定員も少なく難関です。
- ② 短期大学（3年）は、国立大学・公立大学附属の短大部、公立・私立の看護短大があります。国公立短大は、4教科型（国、数、理、英）が多く、他に小論文、面接を課している所も多く、一般の短大に比べて科目数も多くかなり難しいのが実情です。卒業後は、保健師、助産師、養護教諭養成校へ進学したり4年制に編入するケースもあります。私立の短大の入試は3教科型（国、理、英）、面接が多くなっています。推薦入試を実施している短大もありますが、国公立の短大は難しいので必ず一般選抜に向けての勉強をしておく必要があります。カリキュラムについては、専門学校と大差はなく、近年、四年制大学に移行する短大が増加しています。
- ③ 専門学校（3年）の場合は多種多様な設置形態があります。

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| ＜i>i> 国公立大学医学部附属看護専門学校 | ＜i>vi> 労働福祉事業団の養成所 |
| ＜i>ii> 私立大学医学部附属看護専門学校 | ＜i>vii> 済生会、厚生連関係の養成所 |
| ＜i>iii> 国立・公立・私立病院附属看護専門学校 | ＜i>viii> 日本赤十字社の養成所 |
| ＜i>iv> 公立看護専門学校 | ＜i>ix> 医師会立専門学校 |
| ＜i>v> 私立看護専門学校 | |

入試の状況は、やはり国公立大学医学部附属また私立大学医学部附属看護専門学校が難しく、競争率が高くなります。入学試験の内容は学科試験（3～4教科型）、小論文（作文）、面接、適性検査など総合的に判断され、受験者の看護師になろうとする意欲や積極性、適性が評価の基準にされています。そこで成績が良いと言うだけでは、合格出来ないということもあります。

◆推薦制度には、指定校制と公募制があります。

①指定校：養成機関の学校から1名程度の限られた人数が割り当てられ受験資格を与えられる。基準に達すれば小論文、面接などを経て合格できる確率が高い。

②推薦枠有校：養成機関の学校から1～2名の限られた人数が割り当てられ受験資格を与えられるが、養成校での選考があり必ず合格するという保証はない。

③公募制：基準に達すれば一般入試より2～3カ月早く受験できる制度である。

※近年、看護系の人気は高く、競争率も高い。一般入試よりも推薦入試の方が倍率が低く、比較的に入りやすいと考えられるので、看護系希望の者は評定平均3.5～3.8は取るようにがんばってほしい。

(2) 診療放射線技師

診療放射線技師は病気の発見のみならず、治療面で現代医療には不可欠の業務で、その絶対数が不足しているため、有資格者の就職率はほぼ100%です。またあらゆる放射線や放射線同位元素を取り扱うことができるため、医療関係だけではなく、原子力工業方面などにも進出しています。

入試の学科試験では2～4教科型で、ほとんどの学校で理科（物理指定の所もある）と数学を課しています。他、面接、小論文など課す所も多くなっています。

特に国公立大学の四年制あるいは医療技術短期大学部の診療放射線技術学科は難関です。

(3) 理学療法士・作業療法士

近年リハビリテーションを必要とする患者は多くなっており、特に作業療法士の必要性が高まっています。

また、この分野には現役高校生だけでなく、社会人の志望者も多く、競争率はかなり高くなっています。入試科目についても国語、英語、数学、理科の4教科型が多く、また、面接、小論文（作文）を課すところが多くなっています。特に国公立の四年制大学は難関です。

(4) 臨床検査技師

現代医療において、この（臨床検査技師の）仕事は患者から得られる検査材料を検査して医師の診断、治療に必要な科学的データを作成するスペシャリストであり、この分野の需要は高くなっています。

入試については、大学・短大は他の学部（特に薬学）との併願をする人が多いので難しくなっています。入試科目については大学、短大においては、4教科型（国数英理）の傾向が強く専門学校においては、2教科型（数理）が多くなっています。また、面接、小論文を課すところも多くなっています。

(5) 歯科衛生士・技工士

最近、衛生士の果たす役割が重要視され資格も国家資格となりました。ほとんどが、2年制の専門学校で、短大は数が少ないので、倍率が高くなる所もあります。入試科目は、国英の2教科型が最も多いが、数学、理科が加わるところも増えつつあります。歯科技工士の仕事も歯科医療をサポートする、なくてはならないものです。また独立して技工所を開業することもできます。

入試は、学科試験（養成校により異なるが、国、数、理が多い）の他、実技試験（石膏帽の彫刻、粘土細工、デッサンなど）、面接、適性検査などがあります。養成校はすべて専門学校（昼2年・夜3年制）です。

(6) 臨床工学技師

医療機器の高度化に伴って、工学的知識と技術がより必要となり1988年（昭和63年）に新設された新しい資格です。人工透析装置、人工呼吸装置、人工心肺装置、集中治療室に関する機器といった「生命維持管理装置」の操作、点検、管理が仕事となります。

入試は科目が数学、理科、英語の3教科が中心です。今のところ、学校数が少なく人気が高まっているので、競争率も高くなると予想されます。

(7) 鍼灸師・指圧師・マッサージ師・柔道整復師

現在、医療において東洋医学が見直され人気が高まっています。個人の診療所が開業できることもあって希望する人が多くなり受験者が増えています（社会人の受験者も多い）。

入試科目は、国、英、理（特に生物）、小論文が中心ですが、中には数学を重視する所もあります。養成校は、ほとんど3年制の専門学校であり、明治国際鍼灸大学、関西医療大学などは人気が高まっています。

(8) 視能訓練士

1971年に新設された資格です。内容は、弱視・斜視の検査や機能回復を行う仕事と、視力・色覚・視野などを検査する仕事に大別されます。早期発見早期治療によって正常な機能回復が取り戻せるケースが少なくないので患者一人一人にあった検査、訓練を組み立てる能力が重要です。また、医師の要求にも応えられるだけの

高度な専門知識も必要です。患者はこどもが多く、長期の訓練となるので根気と温かい気持ちを持った人間性が大切です。

養成学校には、大学短大医療系専門学校を卒業してから入学する1年課程の学校と、高校卒業後入学する3年課程・4年課程の学校があります。

(9) 言語聴覚士

1998年に新設された新しい国家資格で略称 ST (speech Therapist) と呼ばれます。仕事は、言語や聴覚に障害を持つ人に対してその機能の回復維持を図るための適切な訓練や指導、検査などです。

一般の大学・短大で1年以上指定科目を履修し、1年(2年)課程の養成所を出て国家試験受験資格を得るコースと、高校卒業後視能訓練士の養成大学(4年)・学校(3年~4年)を卒業して受験資格を得るコースがあります。

入試科目は、学校によりばらつきがありますが、高校卒業後入学できる3年課程・4年課程の専門学校の場合は、国(古漢除く)、英、数、作文、面接、適性検査などです。

(10) その他の医療スタッフ(国家試験要)

新しい専門職として、①義肢装具師(S63年~)、②救急救命士(H4年~)、③精神保健福祉士(H9年~)などがあります。最近の医療発展の進歩によって需要は高まっていますが、養成校はまだ少なく、人数も不足しています。

入試科目は2~4教科を課すところが多く、面接、小論文も重視されます。

8. 進学のための費用

進学するにはお金がかかります。進学先の入学金、授業料だけでなく、併願校(滑り止め)の学校の入学金は納めないと合格取り消しとなります。授業料は期日までに申し込むと返金されます。

また、受験料も少なくありません。なかなか志望校に合格できなくて、併願校の受験料も併せて20万円から30万円かかる人も少なくありません。

お金はすぐに用意はできません。受験計画を立てて、保護者とよく話をしてください。

▼ 私立大学の学費

文部科学省の調査によると、学部ごとの初年度納付金の平均額は次の通りです。

文科系学部 1,146,819円

理科系学部 1,501,833円

私立大学と国公立大学の授業料は昔と比べるとそこまでの差はありませんが、理科系学部では今でも大きな差となっています。

▼ 奨学金とは?

奨学金とは、在学中に学業資金を借り、卒業後に分割して返済する制度です。在学中の経済的負担を軽減できます。また、自分で返済すれば、親にお金の心配をかけずに済みます。

お金を返す「貸与制度」と、お金を返さなくていい「給付制度」があり、貸与の場合でも無利子や低金利なので、無理なく返済できるようになっています。

奨学金には、日本学生支援機構奨学金、国の教育ローン、地方公共団体の奨学金、民間育英団体の奨学金、学校独自の奨学金などがあります。

日本学生支援機構奨学金は他の奨学金に比べて募集人員も多く、「給付」と「貸与」の2種類があり、評定平均値による学力基準や親の所得による家計基準で判定されます。貸与の方は、無利子で貸与する第1種と、有利子の第2種があります。どちらも支給期間は最短卒業予定年度の3月までです。ただし、その間は学力成績や生活状況の報告が学校から日本学生支援機構に提出され、問題があれば指導を受けたり、停止されたりすることがあります。本校3年生時に予約手続きができます。

「進路の手引き」が配布されているときには予約手続きの案内が始まっているので保護者と相談して自分の借金として自分で書類をよく読み、自分で記入して申し込んでください。

B. 就職・公務員編

1. 就職について

(1) 就職試験の流れ

求人票の受付	7月1日～	求人票とは、企業が高校生の就職を求める書類で、各企業から指定した高校に送付されます。会社の概要や勤務条件などが記載されています。原則として、12月までは求人票が届いた企業だけしか受験できません。
求人票の公開	7月下旬	
受験企業の調整、決定		
就職試験	9月中旬～	

(2) 就職試験を受けるにあたっての注意点

- ① 指定校求人とは専願（一人1社制）で同時に2社以上を受験できません。また、採用された場合は必ず入社しなければなりません。（公募制で併願できる会社もあります。）
- ② 公務員試験の出願と企業への出願は同時にできません。
- ③ 各高校から受験できる人数は、各企業に1人（または2人）が原則です。もし、希望者が重なったら、成績や欠席日数などによって調整します。
- ④ 景気の低迷は依然続いており、採用数が減少しています。各企業は高校卒業者の採用をやめて大学卒や短大卒、専門学校卒の者を採用する傾向にあります。ここ数年厳しい状況にあり、就職を考えている者は、真剣に学校生活に取り組まなければなりません。



(3) 就職試験を失敗しないための、日頃からの心がけ

- ① 規律ある学校生活をおくる。
就職試験では、3年間の欠席や遅刻の状況を重視します。3年間の欠席日数が10日を超えないように、できれば3年間皆勤を目指しましょう。
- ② 挨拶や正しい言葉遣い、好感を与える態度や行動を習慣づけよう。
就職試験では面接が重視されます。その際、言葉遣いなどは面接試験の直前になって直そうとしても無理です。身だしなみとともに、普段から気をつけましょう。
- ③ 資格を取得しよう。
英語検定や漢字検定など在学习中に取得できる資格もかなりあります。受験の際、企業に提出する履歴書には資格を記入する欄があります。この欄が空白にならないように、3年間で必ず何か資格をとるようにしましょう。
- ④ 基礎学力や一般常識をはじめ、学業成績をあげよう。
ある企業に受験希望者が重なった場合、3年間の成績で調整します。それだけでなく、試験の際に基礎学力や一般常識を問う試験が課されたりします。毎日の授業をしっかりと受けるとともに、普段から新聞などにも目を通して一般常識や時事問題の知識をつけておきましょう。

2. 公務員について

(1) 公務員の性格

公務員の性格については、日本国憲法第15条2項に「すべて公務員は、全体の奉仕者であって、一部の奉仕者ではない」と規定されているように、公共の利益に資するべき旨が示されている。また、公務員の仕事は国民（住民）の利益に直接影響を及ぼすため、公務員には高い倫理観が要求されている。

(2) 国家公務員と地方公務員

公務員は「国家公務員」と「地方公務員」とに大別できる。一般に、国の機関に勤務する公務員が国家公務員、都道府県や市町村などの地方公共団体（自治体）に勤務する公務員が地方公務員である。

* 国家公務員

国家公務員は各府省庁（その地方機関、付属機関）や国会、裁判所、内閣などに勤務する職員である。国の公務を担当し、国の各機関の長によって選任され、国から給与を支給される。

国家公務員は「一般職」と「特別職」とに分けられる。人事院が行なっている公務員採用試験によって採用され

る国家公務員は「一般職」であり、高卒程度・大卒程度および刑務官、入国警備官などの試験を実施している。「特別職」には、防衛庁職員、裁判所職員、国会職員などがあり、任用、給与、服務などの制度も各機関別に定められ、採用試験も機関別に実施される。

*** 地方公務員**

都道府県や市町村の役所に勤務し、都道府県、市町村から給与を支給される職員である。ただし、都道府県の役所に勤務はしていても、社会保険事務所および公共職業安定所（ハローワーク）の職員は地方事務官といわれ、国家公務員の身分をもつ。地方公務員も国家公務員と同じく「一般職」と「特別職」とに分けられるがほとんどが一般職である。

(3) 第1次試験

第1次試験は択一式の教養試験および適性試験、作文試験が行なわれる。技術系職種では適性検査・作文試験を実施せずに専門試験を実施する。この第1次試験の教養試験と適性試験（技術系職種では教養試験と専門試験）のそれぞれが一定以上の得点の者について成績順に第1次合格者が決定される。

(4) 第2次試験

第2次試験は、第1次試験合格者に対してのみ実施される。通常は面接だけであるが、職種によっては身体検査や体力測定も実施する。第2次試験の人物試験（面接）の評価と第1次試験で実施した作文試験の評定結果をもとに、最終合格者が決定される。

*** 地方公務員ガイダンス ***

地方公務員採用試験は、各自治体の職員を採用するための試験であり、各自治体ごとに実施されているものである。試験の区分は、上・中・初級としている自治体、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ種（類）としている自治体、上・中級（または中・初級）を同一の区分としている自治体や、区分のない自治体（市役所）などさまざまである。

試験のレベルは一般的に、上級・Ⅰ種が大学卒業程度、中級・Ⅱ種が短大卒業程度、初級・Ⅲ種が高校卒業程度となっている。

① 一般事務

本庁またはその出先機関において、庶務・経理、企画・立案、渉外・折衝、検査、指導などの一般行政事務に従事する。

② 学校事務

公立学校において、庶務・経理などの学校事務に従事する。大学、高校の場合もあるが、主に小・中学校に勤務する。小・中学校の場合は、身分は市町村職員となるのが一般的である。

③ 警察事務

警察本部・警察署などにおいて庶務・経理、企画・立案、渉外・折衝、広聴・広報、検査、指導などの警察事務に従事する。

他に、電気・機械・土木・建築・化学・農業・農業土木・林業・畜産・水産・造園などの職種もある。

*** 卒業生の主な就職先(過去3年間)***

クボタ（株）、日本製鉄、JR 西日本、JR 東海、阪急電鉄、阪急オアシス、東洋テック、太洋エンジニアリング
警視庁、大阪府警、自衛隊、刑務官、東京消防庁、枚方・寝屋川消防組合、乙訓消防組合

3.「履歴書」の書き方

「履歴書」は就職試験のもっとも大切な選考書類です。ここでは、その望ましい書き方を解説します。

履歴書

令和 年 月 日現在

ふりがな	
名 前	
生年月日	昭和・平成 年 月 日生(満 歳)
ふりがな	
現住所	〒
ふりがな	
連絡先	〒

写真を貼る位置

(30×40mm)

資 格 等	取 得 年 月 日	資 格 等 の 名 称		
趣 味 ・ 特 技			校 内 外 の 諸 活 動	
志 希 望 の 動 職 機 種				
備 考				

- (職歴にはいわゆるアルバイトは含まない) ※実物は、A4判の大きさです。また、一部の地域では様式の異なる部分があるので、先生に確認すること。
- ①黒インクのペン書きが最適。 ②必ず自筆であること。
 - ③楷書でていねいに書く。 ④一字一句、省略せずに書く。
 - ⑤数字は算用数字を用いる。ただし、名前、地名、学校名などの数字は漢数字で書く。
 - ⑥まちがえたときは、改めて書き直す。修正液などでごまかさないこと。
 - ⑦用紙を汚したり、変に折り目をつけないように注意すること。
- ▼氏名・・・名前を正式の表記で書く。特に旧字体の漢字に注意。(斉と齋、沢と澤など)
- ▼写真・・・3 か月以内に撮影した証明書用の写真を使う。撮影時の服装・髪型にも留意する。面接試験時に眼鏡を着用する人は眼鏡をした写真にする。
- ▼現住所・・・必ず都道府県名から書き、略さずに書く。番地は算用数字を用いて「〇丁目〇番〇号」と書く。マンション、アパートなどの建物名も明記する。
- ▼資格等・・・検定試験などの資格の取得年月日の順に、正式な名称で略さずに書く。ない場合は、「特になし」と書く。
- ▼校内外の諸活動・・・部活動の名称、役職名、大会実績、研究発表の業績などを書く。生徒会活動やホームルーム等の委員・係活動の記録も書く。
- ▼志望の動機・希望の職種・・・志望企業の内容をよく調べたうえで、会社選択の理由、入社への意欲・熱意を書く。希望の職種があれば書いておく。

4. 求人票の例

求人番号

受付年月日 平成26年6月24日
大阪西公共職業安定所

事業所番号



求人票 (高卒)



27030-165849

2703-6346-0

1 会社の情報

※応募にあたって提出する書類は「統一応募書類」に限られています。(1/2)

事業所名	カブシキガイシャ クボタ		従業員数	企業全体	就業場所	(うち男性)	(うち女性)
	株式会社 クボタ			10,133 人	10,133 人	9,108 人	1,025 人
所在地	〒556-8601 大阪市浪速区敷津東1丁目2-47		電話	06-6648-2317			
	地下鉄、南海、近鉄、阪神線 なんば駅 徒歩 10 分		F A X	06-6648-2459			
代表者名	設立	明治 23 年	Eメール	kbt_q.recruit@kubota.com			
	資本金	840億円	ホームページ	http://www.kubota.co.jp/			
事業内容	「機械（農業・産業）」「水・環境システム」などの事業分野のシステム・製品の研究開発・製造及び販売。		会社の特長	クボタグループは、地球環境や人々の生活を支える製品・技術・サービスを通じて、社会に貢献しています。特に食料・水・環境の分野で、日本に留まらず世界中で事業を展開しています。			

2 仕事の情報

雇用形態	正社員	職種	生産スタッフ（入社後約1年間は研修生）	求人数	通勤	住込	不問
				0 人	0 人	72 人	
仕事の内容	主として製造分野（製造、検査、生産技術等）において、下記の取り扱い製品のモノづくりに携わっていただきます。入社後1年間はモノづくりに必要な技能技術の基礎を身に付けていただくために研修を受けていただきます。			作業遂行上特に必要な知識または技能 (履修科目等)	不問		
	・取扱製品 堺製造所…トラクタ、エンジン、建設機械 枚方製造所…建設機械、ポンプ、バルブ、鋳鋼製品 恩加島事業センター…エンジン、排水システム 阪神工場…鉄管、ロール、ティーザクス 久宝寺事業センター…計量機器、精米機						
雇用期間	なし ~						
就業場所	〒 転勤の可能性なし 弊社各事業所（大阪を中心に能力・適性等を判断し決定） 大阪府（堺市、枚方市、大阪市大正区、八尾市）兵庫県（尼崎市） ＊別紙のとおり （ ）下車徒歩（ ）分			就業時間	変形（1週間単位非定型的） (1) 8時00分 ~ 16時30分 (2) ~ (3) ~	時間外 休憩時間	あり 月平均 2 時間 45 分

労働条件等

賃金	賃金締切日	毎月 15 日	その他	賃金支払日	毎月 25 日 当月払い	その他
	賃金形態等	月給	日給・時給 ・年俸・その他の額	円	その他の内容	
毎月の賃金	定額給付金	171,500 円	手当	円	(1) 通勤	171,500 円
	支払われる賃金	月平均労働日数 20.0 日	手当	円	住込	171,500 円
賃金から控除するもの	ア 税金	イ 社会保険料	ウ 宿舎費	エ 食費	(2) (ア+イ+ウ+エ) 控除額合計	通勤
	3,000 円	21,500 円	40,000 円	7,600 円	住込	72,100 円
特別に支払われる手当	実費（上限なし）	マイカー通勤可	事業所により異なる入社後1年は不可	手取り額	(1) 通勤	139,400 円
	交替勤務 手当 11,000 円 残業 手当 2,878 円 家族 手当 13,000 円 住宅 手当 11,000 円	賞与あり	(新規学卒者の昨年度実績) 年 2 回 計 3.00 月分 又は 万円	昇給	昇給あり 年 1 回 5,000 円/月 又は %	

求人番号

受付年月日 平成26年6月24日
大阪西公共職業安定所

事業所番号



求人票 (高卒)



27030-165849

2703-6346-0

3 労働条件等 (つづき)

※応募にあたって提出する書類は「統一応募書類」に限られています。(2/2)

休日等	休日 土日祝 週休 毎週 二日制 年間休日数 125日	有給休暇	入社時 10日 6ヶ月経過後 0日 最大 20日	休業等取得実績	育児休業 あり 介護休業 あり 看護休暇 あり
福利厚生等	加入保険等 雇用 労災 公災 健康 厚生 財形 確定給付年金 退職金全済 退職金制度 あり (勤続 2年以上)	宿 舎	独立の宿舎 入居 1部屋 1人 1人当たり 6.0量 勤務先までの時間 30分	就業規則	フルタイムあり パートタイムあり 労働組合 あり
通学	可 時間配慮 なし (賃金支払いなし)	通学時間	学校名 分 交通手段	通学費用の 企業負担	なし 入学金 教科書代 交通費 授業料月額 円

4 選考

受付期間	9月5日 ~ 9月5日	選考日	9月16日 以降随時	複数応募	否
選考場所	本社(大阪)または九州支社(福岡) 詳細は別途通知	応募前 職場見学	可	補足事項欄参照	
選考方法	面接 適性検査	学科試験	一般常識 国語 数学 英語 社会 理科 作文 その他	採否決定	9月26日 日後 選考旅費 あり
選考担当者	課係名 人事部 育成グループ 役職名 電話番号 06-6648-2317 内線 2317 Eメール mio.furuya@kubota.com	氏名	ふるや みお 古谷 美緒	FAX	06-6648-2459
赴任	(入社日) 平成27年4月1日 (赴任旅費) あり				

5 補足事項・特記事項

補足事項	1. 研修制度 入社後約1年間は大阪(堺または枚方)の当社製造所に併設の研修所・寮にて教育。その後に各事業所へ配属(研修中は通勤可能な場合も必ず全員入寮) <目的> (1) 社会人の考え方・行動の修得 (2) 技術・技能の修得 (3) スポーツ大会、各種行事等を通じたチームワーク醸成 2. 福利厚生 ・様々な宿泊施設、スポーツクラブ等の割引制度 ・年間85,000円の補助制度(昼食費補助や通信教育で使用可) ・サッカー、野球、バレーボール等のクラブ活動、各種イベント行事 ☆応募前職場見学可(遠方からの場合、交通費の半額支給) *詳細は別紙 ☆宿舎・1年間の研修期間中は1部屋2名	求人条件にかかると特記事項	【指定校求人】 ※指定校別表参照 ※特別手当に支払われる手当の補足 ・家族手当・13,000~20,000円 ※応募受付は9月5日消印で確認 ※時間外労働時間、残業手当の金額は入社後1年間の目安であり、変動します。 ※毎月の賃金から控除するものの補足 宿舎費・宿舎の費用、食費(朝・夕食)、水道光熱費含む
------	---	---------------	--

インターネットによる全国の高校への公開 不可

6 求人連絡・推薦数と採用・離職状況

果	安定所	求人連絡数	学 校	推薦人員	学 校	推薦人員	採用・離職状況	平成23年 3月卒	平成24年 3月卒	平成25年 3月卒	受理・確認印
求人連絡・推薦数		人		人		人	採用者数	119人	142人	139人	
		人		人		人	採用者数	78人	102人	101人	
		人		人		人	離職者数	6人	2人	2人	
求人連絡総数 所		人	推薦依頼総数 (管内) 2校 (管外) 校	2人 121人							

産業分類 266 金属加工機械製造業

職業分類 083-99

就業場所住所 兵庫県尼崎市

大阪府大阪市大正区

大阪府堺市堺区

雇用保険適用事業所番号

〈「求人票」の記載内容別チェックのポイント〉

1. 求人者

- ・実際に勤務するのは、「所在地」ではなく、「就業場所」なので、自分の通勤条件とよく検討する。
- ・この企業がどのような事業をしているのかを「生産品目」「事業内容」でしっかり確認する。不明瞭な場合は、担当の先生を通じて確認する。
- ・会社の規模や歴史を企業選択の基準として重視する場合はチェックしておく。

2. 就業時間・休日等

- ・「就業時間」では、特に開始時間をチェックして、通勤時間と合わせて検討する。
- ・どのような勤務形態なのか、自分の希望とよくすり合わせて検討する。サービス業では、土・日が休日とは限らないことが少なくない。

3. 賃金

- ・賃金の合計から税金や社会保険料等を差し引いた額が、実質的な「手取額」となる。
- ・「残業手当」の有無と金額等については、「2. 就業時間・休日等」に記載された残業の状況と合わせて確認しておく。
- ・「賃金形態」についても業種によっては月給制とは限らないので確認しておく。

4. 職種

- ・求人職種を確認することは当然であるが、「7. 作業内容等」に記載されている具体的な仕事の内容と合わせて確認する。
- ・「求人票」は、男女不問求人となっているが、求人職種により、就職指導担当の先生に確認した方がよい場合もある。

5. 求人数

- ・今回の選考試験における採用予定人数が記載されている。

6. 雇用の期間の定め

- ・「無」とは、いわゆる正社員としての採用を意味する。「有」は、それ以外の契約社員ということになる。「有」の場合は、どのような雇用形態になるのか、また、雇用期間についてよく確認する。

7. 作業内容等

- ・具体的な仕事の内容が説明されているので確認する。内容が不明瞭な場合は、担当の先生を通じて確認する必要がある。
- ・「作業遂行上特に必要な知識または技能」「求人条件にかかる。特記事項」は採用条件として確実に確認しておく。

8. 福利厚生等

- ・加入保険の充実ぶりは、賃金とともに、大事なポイントとなる。
- ・自宅外の通勤を希望する場合は、「宿舎」の有無を確認しておく。ない場合は、勤務地への通勤事情を考えて探すことになる。

9. 通学

- ・大学・専修学校等の夜間課程に通学を希望する場合は、その条件が整備されているかを確認しておく。もちろん、就業時間や残業の状況とも考え合わせて通学が可能かを検討する必要がある。

10. 応募・選考

- ・採用試験の要領が記載されている。試験対策を立てるための目安になる。
- ・特に応募期限を確認のうえ、「履歴書」等の応募書類の準備を着実に進めておきたい。

11. 赴任

- ・採用が決定したら、いつから就労することになるのかわかる。

12. 補足事項

- ・所定の記載事項では分類できない内容が記載されている。企業選択の際の大切な条件が記載されているかもしれない。見落とすことのないよう確認しておく。

13. 採用事務担当者

- ・応募をすることが決まったときには、「選考月日」や「選考場所」などの必要な情報とともにメモしておきたい。

14. 採用・離職状況

- ・過去3年間の採用・離職状況がわかる。離職率が高い場合は、その理由をよく検討する必要がある。場合によっては、担当の先生を通じて確認しておく。

〈参考資料〉

求人企業を知るための情報には、「求人票」以外には次のようなものがある。

- ・各社の「会社案内」
- ・各社のホームページ
- ・『会社四季報』
- ・業界新聞
- ・業界情報をまとめた就職活動のための書籍